

基盤教育におけるボランティア学生に関する考察

—岡山理科大学「こころ豊かに生きる」科目に焦点を当てて—

A Study on Volunteer Student Staff in Fundamental Education

—Focusing on the subjects "Enhancement Life Quality" at Okayama University of Science—

野間川内一樹・山咲博昭^{*1}・中山紘之^{****}・村西利恵^{**2}・山崎和哉^{***}・
山口一裕・大山香織^{****}・重松利信^{*****}・秦敬治^{*****}

岡山理科大学教育推進機構教育開発センター

*岡山理科大学大学教育推進機構教育開発センター客員センター員

**岡山理科大学非常勤講師

***岡山理科大学大学院マネジメント研究科

****岡山理科大学教育企画部教育企画課

*****岡山理科大学教育推進機構基盤教育センター

*****岡山理科大学教育推進機構

¹広島市立大学企画室・²関西テレビ放送株式会社

1. はじめに

昨年度、岡山理科大学教育実践研究に「岡山理科大学の基盤教育における新しい取り組み—こころ豊かに生きる科目の学生への影響と今後の展望—」（参考文献 1）を寄稿した。その中で、2020 年度に岡山理科大学が導入した、「こころ豊かに生きる」科目（セルフ・アウェアネス、ライフ・ビルディング、アサーティブ・コミュニケーション）が、受講学生に高い満足度を与えることを示した。受講学生に高い満足度を与えることができた要因の一つに、教職員スタッフとボランティア学生がグループワーク時にファシリテーターとして参加してくれたことが有意義であったとするコメントが多数見られた。特に、ボランティア学生の存在が受講生に与えた影響は大きく、「こころ豊かに生きる」科目の受講学生が、授業終了後にボランティア学生のところへ足を運び、学生生活等について相談する姿が多数見られた。「岡山理科大学の基盤教育における新しい取り組み—こころ豊かに生きる科目の学生への影響と今後の展望—」（参考文献 1）でも示した通り、今後、「こころ豊かに生きる」科目のクラス数を増やし、受講学生により高い満足度を与え、充実した学生生活を送ってもらえるようにするために、ボランティア学生の確保は課題の一つである。

本教育実践報告では、ボランティア学生としての経験が、学生自身に与える影響を明らかにすることを目的とする。これにより、「こころ豊かに生きる」科目のボランティア学生を

目指す学生が増加し、「こころ豊かに生きる」科目を中心に、受講学生とボランティア学生が成長する、学生の成長の循環を実現するための一助となることを期待する。

2. ボランティア学生

2-1. ボランティア学生の役割

ボランティア学生は、表 1 と表 2 に示すアンケート結果から、学生の模範となる能力を有し、この活動を通して、自分自身も成長したいと考える向上心の高い学生で編成されている。学生自身の過去の経験から学んだこと、習得したことを活かし、授業前から授業中、授業後を通して、授業担当教員のサポートや受講学生のサポートを行う。授業で行われるグループワークのファシリテートや事例を示す等、受講学生に対して模範となる行動を示すが、専門的知識を有してはいないため、授業内容について受講生に指導を行うことはしない。また、ボランティア学生は、表 1 に示す通り、自分自身の成長のためにも活動に参加している。そのため、活動内容や活動中の態度や姿勢について、ボランティア学生同士による振り返りや授業担当教員による指導を受けることで、この活動を自分自身の成長の機会にしている。

2-2. ボランティア学生の活動内容

「こころ豊かに生きる」科目におけるボランティア学生の活動内容は以下の通りである。

① 授業前の教室のセッティング

- ・グループワークのための机のセッティング
- ・受講生の名札を準備し、授業に来た学生から順番に名札を配付
- ・プロジェクターの準備
- ・授業撮影用のカメラのセット
- ・受講学生の教室への迎え入れ
- ・配付物の準備や仕分け

② 授業後の片づけ

- ・教室の復旧作業
- ・プロジェクターの片づけ
- ・授業撮影用カメラの片づけ
- ・受講生の名札の回収と整理
- ・受講学生の送り出し

③ グループワークのファシリテーター

- ・受講生 4 名～5 名のグループを 1 名ないし 2 名のボランティア学生が担当
- ・各グループの雰囲気をコントロール
- ・発表内容の事例を紹介
- ・グループワークの時間管理

④ 気になる学生への声掛け

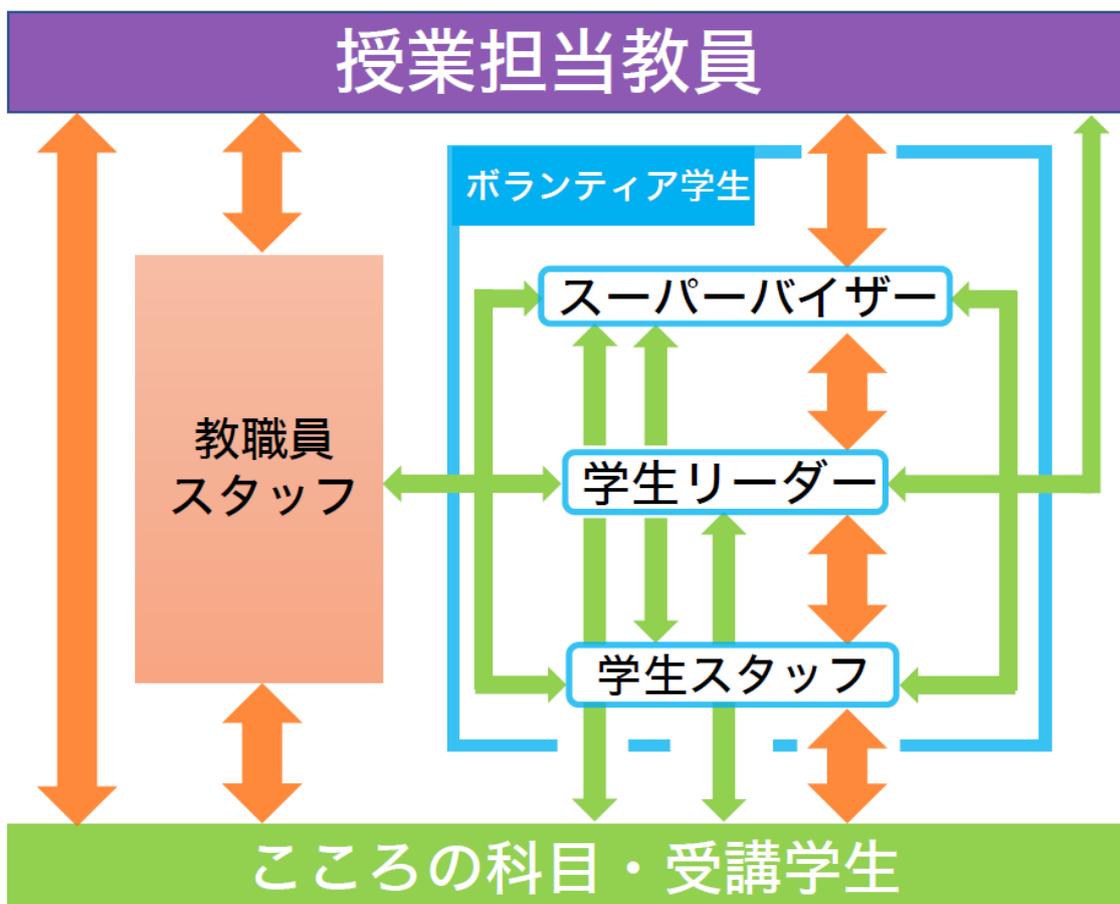
- ・ボランティア学生が自ら、発言が少ない受講生や一人で行動しがちな受講生に対して、授業の前後で声掛けをし、関係性の構築を行う。
 - ・レポートの内容などから教員が気になる受講生に対して、教員からの依頼により授業前後に声掛けを行う。
- ⑤ オンライン授業の対応
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインでの受講を希望する学生に対して授業前にパソコンやカメラの準備を行い、授業後には片付けを行う。
 - ・グループワークの際には、オンラインで受講する学生のグループのファシリテーションを行う。

2-3. ボランティア学生の選抜方法と構成

2021年度の「こころ豊かに生きる」科目のボランティア学生は、2019年度までに「西日本学生リーダーズ・スクール（University Network for Global Leadership Development in West Japan）通称：UNGL」で行われるリーダーシップセミナーに参加経験のある学生と、2020年度に同科目を受講した学生から希望者を募り32名を採用した。その他「アカデミックアドバイジング・デスク」のボランティア学生としても活動する希望学生1名を事前の授業見学と研修の後に採用。合計33名のボランティア学生を採用したが、ボランティア学生自身の履修の都合から、2021年度春学期に「こころ豊かに生きる」科目のボランティア学生として活動した学生は26名であった。

また、ボランティア学生に登録している学生が32名に上ることから、4名の学生リーダーを選出し、ボランティア学生の管理と、各授業へのボランティア学生の配置を行っている。また、2019年度までにUNGLで行われたリーダーシップセミナーに参加し2020年度にボランティア学生を経験した大学院生と4年生の2名が、ボランティア学生のスーパーバイザーとなり、学生リーダーにアドバイスやサポートを行っている。これにより、授業担当教員は授業に関係する様々なことを、スーパーバイザーとなる2名の学生に指示し、スーパーバイザーの2名の学生が4名の学生リーダーに指示を出し、4名の学生リーダーが学生スタッフのメンバーに指示を出すことで、ボランティア学生内での3層の組織となっている。これにより、ベテランと言われる2名のスーパーバイザーにとっても、4名の学生リーダーにとっても組織を運営する者としての新たな気づきや体験から、学びを得ることとなる。

この他、「こころ豊かに生きる」科目の授業には、授業担当の教員以外に、グループワーク時にファシリテーションを行う、教職員スタッフも授業に参加しており、授業における教職員とボランティア学生の関係を整理すると図のようになる。尚、図中の矢印は、学生や教職員間のやり取りの有無と方向を表し、矢印の太さはその頻度を表す。



※「こころの科目」は「こころ豊かに生きる」科目を指す。

図 「こころ豊かに生きる」科目の授業における教職員と学生の関係

2020年度に同科目を履修し、2021年度春学期に「こころ豊かに生きる」科目のボランティア学生として活動した学生の動機は表1の通りである。

また、「3 ボランティア学生に憧れたから」と回答した学生に、どのようなところに憧れたのか、自由記述形式で質問したところ、12の回答を得られた。全ての回答を「ファシリテーションスキルについての内容」「コミュニケーション力の高さについての内容」「リーダーシップ力についての内容」の4つの項目に分類しその理由を表2にまとめた。その結果、ボランティア学生のファシリテーターとしての力量やコミュニケーション力の高さに関する回答が全12件中9件(75.0%)と非常に高かった。このことは、表1に示したボランティア学生として参加した理由の中で、「ファシリテーターとしてのスキルを身につけたかったから」と回答した学生が76.9%と最も高くなっていることに関連していると考えられる。つまり、学生が、授業中に行われるグループワークの際に、受講学生と良好なコミュニケーションをとりながら、ファシリテーターとしての役割を果たし、その姿が受講学生の成長意欲にも影響を与えていることである。

表1 ボランティア学生として参加した理由（選択回答/複数選択可）

	選択項目	春1学期		春2学期		合計	
		回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
1	ファシリテーターとしてのスキルを身につけたかったから	12	75.0	18	78.3	30	76.9
2	1年生と交流できるから	8	50.0	7	30.4	15	38.5
3	ボランティア学生に憧れたから	7	43.8	6	26.1	13	33.3
4	授業の内容に興味があったから	7	43.8	6	26.1	13	33.3
5	友人に誘われたから	6	37.5	5	21.7	11	28.2
6	1年生の役に立ちたいと思ったから	6	37.5	4	17.4	10	25.6
7	教職員と交流できるから	5	31.3	5	21.7	10	25.6
8	受講生だったときよりも深く授業内容を理解できると思ったから	6	37.5	2	8.7	8	20.5
9	教職員の役に立ちたいと思ったから	3	18.8	2	8.7	5	12.8
10	アイスブレイクを運営できるから	2	12.5	2	8.7	4	10.3
11	先生に勧められたから	2	12.5	2	8.7	4	10.3
12	就職に有利だと思ったから	0	0.0	1	4.3	1	2.6

表2 「ボランティア学生に憧れたから(表1)」と回答した学生のその理由についての自由記述の分類

分類	自由記述内容
ファシリテーションスキルについての内容	<ul style="list-style-type: none"> ・上手にみんなの意見をまとめたり話を進められるところ。 ・ファシリテーターがとてもうまくて、私も話をうまく盛り上げられる人になりたいと思った。 ・グループワークで楽しそうに受講生と話しながらファシリテーションをしているところ。 ・話の話題を振ってくれるところやグループを盛り上げて楽しませてくれるところに憧れました。
コミュニケーション力の高さについての内容	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をおろそかにしないところ。ボランティア学生同士の仲が良く、受講生に対しても授業と休み時間の区別なく、声をかけてくださるところ。 ・話をしっかり聞いて、コミュニケーション能力の高さと、親身になって話を聞くこと。 ・話し上手聞き上手心を開ける ・コミュニケーション能力が高い、話していて楽しい。 ・学内や通学中に見かけると、気持ちよく挨拶をしてくれるところ。
リーダーシップ力についての内容	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ学生でありながら、学生を引っ張っていけるところ。 ・スタッフ同士で切磋琢磨しているところ。 ・グループワークなどで受講生を常に引っ張っていた所や受講生と会話をする中で受講生を存分に楽しませてあげていた所に憧れました。

3. ボランティア学生の自己評価

「こころ豊かに生きる」科目にボランティア学生として参加することが、ボランティア学生にどのような影響を与えているか、また、ボランティア学生にとってもより深い学びの場となるよう授業形態を改善していく目的で、節目となる春1学期終了時と春2学期の終了時にボランティア学生に対し調査を行った。

なお、岡山理科大学では2021年度入学者より Semester制を採用しているが、2020年度以前の入学者はクォーター制となっているため、ボランティア学生自身の履修の都合から、春1学期と春2学期では一部ボランティア学生として参加した学生が異なる。

3-1 調査方法と質問項目

春1学期にボランティア学生として「こころ豊かに生きる」科目に参加した学生24名

と、同様に春2学期に参加した24名、延べ48名に対し春1学期と春2学期の授業終了後に google フォームによるアンケートを実施、春1学期終了時に16件、春2学期終了時に23件、合計39件の有効な回答が得られた。

アンケート項目は以下の通りである。

- 質問1 現在何年生ですか。
- 質問2 春学期はどの授業にボランティア学生として参加しましたか（複数回答可）。
- 質問3 これまでボランティア学生としてどの授業に参加していましたか（複数回答可）。
- 質問4 ボランティア学生として参加した理由を教えてください（複数選択可）。
- 質問5 「ボランティア学生に憧れたから」を選択した人に質問です。ボランティア学生のどのようなところに憧れますか。
- 質問6 自身のファシリテートを評価してください（5段階で評価してください）。
- 質問7 ボランティア学生の経験を通してファシリテートスキルはアップしましたか（5段階で評価してください）。
- 質問8 同じグループの受講生に気づきを与えることができましたか。
- 質問9 ボランティア学生として授業に参加する前はどのような気持ちでしたか（自由に記入してください）。
- 質問10 ボランティア学生として授業に参加するにあたり気を付けていたことは何ですか（自由に記入してください）。
- 質問11 ボランティア学生として授業に参加して、自分自身に気づきがありましたか。
- 質問12 自分自身に気づきがあった方に質問です。どのような気づきがありましたか（自由に記入してください）。
- 質問13 ボランティア学生として活動することにやりがいを感じますか（5段階で評価してください）。
- 質問14 どのようなときにボランティア学生として活動することにやりがいを感じるのか自由に記入してください。
- 質問15 ボランティア学生として授業に参加することを友人や知人に勧めたいですか。
- 質問16 ボランティア学生として授業に参加して自分自身が成長したと思いますか（5段階で評価してください）。
- 質問17 どのように自分自身が成長したと思うのか自由に記入してください。
- 質問18 ボランティア学生として授業に参加して学んだこと、あなたを変えたことは何ですか（自由に記入してください）。
- 質問19 ボランティア学生として何か要望がありますか。（自由に記入してください）

4. 結果

4-1 評価方法

質問6, 質問7, 質問13, 質問16は以下のように評価1～評価5の5段階評価とした。

いずれも、評価5に近づくほど高い評価となる。

- ・質問6：全くファシリテートできなかった（評価1）～とてもよくファシリテートできた（評価5）
- ・質問7：全くアップしなかった（評価1）～とてもアップした（評価5）
- ・質問13：全く感じない（評価1）～とてもそう感じる（評価5）
- ・質問16：今までと変わらない（評価1）～とても成長したと思う（評価5）

質問6、質問7、質問13、質問16の5段階評価のうち、評価4、評価5の合計の結果は表3のようになった。質問6については、春1学期から春2学期にかけて、全回答数に対する割合が27.3ポイント伸びていた。これは過去にボランティア学生を経験したことのある学生の割合が、春1学期は43.75%だったのに対し、秋2学期には56.52%と増加していたことから、経験を積んだ結果ファシリテーターとしての自信がついてきた結果であると考えられる。なお、質問7、質問13、質問16は春1学期、春2学期とも80%を超える高い結果となった。

表3 評価4、評価5の合計の回答数と割合

質問番号	春1学期		春2学期		合計	
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)
質問6	6	37.9	15	65.2	21	53.8
質問7	13	81.3	20	87.0	33	84.6
質問13	15	93.8	21	91.3	36	92.3
質問16	14	87.8	20	87.0	34	87.2

4-2 選択肢による回答

質問8、質問11、質問15における選択肢毎の回答数と割合は、表4～表6の通りであった。なお、質問4の「ボランティア学生として参加した理由を教えてください(複数選択可)」の結果は2章で述べた通りである。

表4を見ると、頻度に差はあるものの、「気づきを与えることができた」とする回答が94.9%となり、ボランティア学生としての活動を通して、自信をつけることにもつながったものとする。表5では、「気づきがあった」とする回答が97.4%となり、ボランティア学生の活動が、学生にとっての学びの場となっていることが分かる。また、表6を見ると、「勧めたい」とする回答が100%となった。これは表4、表5の結果から読み取ることができるよう、ボランティア学生の活動を通して、学生が自分の成長を実感したことで、ボランティア学生の活動に参加したことに満足した結果であると推測する。

表4 質問8「同じグループの受講生に気づきを与えることができましたか」の選択肢毎の

回答数と割合

選択肢	春1学期		春2学期		合計	
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)
毎回気づきを与えることができた	3	18.8	3	13.0	6	15.4
2回に1回くらいは気づきを与えることができた	4	25.0	7	30.4	11	28.2
3回に1回くらいは気づきを与えることができた	8	50.0	12	52.2	20	51.3
全く気づきを与えることができなかった	1	6.3	1	4.3	2	5.1

表5 質問11「ボランティア学生として授業に参加して、自分自身に気づきはありましたか」の選択肢毎の回答数と割合

選択肢	春1学期		春2学期		合計	
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)
多くの気づきがあった	3	18.8	14	60.9	17	43.6
いくらかの気づきがあった	12	75.0	9	39.1	21	53.8
あまり気づきはなかった	1	6.3	0	0.0	1	2.6
全く気づきはなかった	0	0.0	0	0.0	0	0.0

表6 質問15「ボランティア学生として授業に参加することを友人や知人に勧めたいですか」の選択肢毎の回答数と割合

選択肢	春1学期		春2学期		合計	
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)
勧めたい	6	37.5	12	52.2	18	46.2
勧めたくない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
本人が希望するなら勧めてもよい	10	62.5	11	47.8	21	53.8
どちらとも言えない	0	0.0	0	0.0	0	0.0

4-3 自由記述

ボランティア学生としての活動を通じて、ボランティア学生自身が感じた成長ややりがいに関する自由記述式の質問（質問 12、質問 14、質問 17、質問 18）について、内容を読み込み、特に「自分自身の成長」に注目して整理を行った。

4-3-1. 質問 12 の回答

質問 12 では「自分に気づきがあった方に質問です。どのような気づきがありましたか」という内容で自由記述してもらい、「今までは、自分はグループワークでファシリテーターをするようなタイプではないと思っていたが、やってみると、意外とできる時ということがわかった。」「気配りをちゃんとできていないなと思った。」など、春 1 学期に 16 件、春 2 学期に 21 件のコメントを得ることができた。学生各自の気づきの内容には、ポジティブな内容の気づきと、ネガティブな内容の気づきがあることから、合計 37 件のコメントをポジティブな内容と、ネガティブな内容に分類し、更に、ポジティブな内容のうち「自分自身の成長を実感している内容」、ネガティブな内容のうち「これからの成長を感じさせる内容」に分類した。

全てのコメントの中で、ポジティブな内容が 23 件あり、反対にネガティブな内容のコメントは 11 件となった。その他は、コメントの内容からポジティブな内容ともネガティブな内容とも判断つかない内容のものであった。ポジティブな内容の 23 件のうち、学生が自分自身の成長を実感している内容は 21 件、ネガティブな内容のうち、これからの成長を感じさせる内容が 4 件あり、学生が自らの成長を実感している、或いは、これから成長しようとする意志を感じる内容のコメントが合計で 25 件あり、学生がボランティア学生の活動を通して得た気づきのうちの多くが、自身の成長に関する内容であった。

4-3-2. 質問 14 の回答

質問 14 では「どのようなときにボランティア学生として活動することにやりがいを感じるか」という内容について自由記述してもらった。質問内容の性質上、全ての回答がポジティブな内容であったことから、学生自身が自分の成長を実感している内容かどうか注目して分類を行った。その結果、「上手く話し合いを進めることができたとき。」「受講生が笑ってくれたり、なるほどなって言ってくれたり、自分が聞いたから受講生がいい意見を言ってくれたとき」など、春 1 学期に得た全コメント 15 件、春 2 学期に得た全コメント 22 件、合計 37 件のコメントを得た。そのうち学生が自分自身の成長を実感している内容が 28 件あり、質問 14 の全てのコメントに対する割合は 75.7%と、高い割合の学生が自分の成長したことで、やりがいを感じていることが分かった。

4-3-3. 質問 17 の回答

質問 17 では「どのように自分自身が成長したと思うか」という内容について自由記述による回答を求め、「自分自身、状況判断が前より得意になった気がする。」「周りの話を多く

聞いて色々なことに挑戦してみようって思えるようになりました。」など、春 1 学期に 15 件、春 2 学期に 23 件、合計で 38 件のコメントを得ることができ、質問の内容から、全てのコメントが、学生自身の成長を感じたことに関する内容であった。

4-3-4. 質問 18 の回答

質問 18 では「ボランティア学生として授業に参加して学んだこと、あなたを変えたことは何ですか」という内容で自由記述してもらった。その結果、「あがり症ですぐに顔が赤くなっていたのが落ち着いて話すことができるようになり、話すことに対して不安が少なくなった」「何かに挑戦しようと思うときに、自分が勇気を出すことも重要だが、自分の意思を尊重してくれる仲間との信頼関係を作っておくことが大切である点」など、春 1 学期に 15 件、春 2 学期に 23 件、合計で 38 件のコメントを得ることができた。このうち 38 件全てが、学生が自身の成長を感じたことに関する内容であった。

4-3-5. 成長を感じた項目

4-3-1～4-3-4 に示した通り、自由記述の内容について、ボランティア学生の活動を通して、学生が「自分自身の成長を感じているか」、或いは、「これから成長しようと感じているか」について分類を行ったところ、全コメント数 150 件のうち 129 件 (86.0%) のポジティブなコメントがあった。この成長を感じたとするコメント、或いは、これから成長しようとするコメントについて、さらに分類を進め、「ファシリテーションについての内容」「コミュニケーションについての内容」「リーダーシップに関する内容」「学びに関する内容」の 4 つの項目に分類した。それぞれの項目毎の件数と、全コメント数 150 件に対する割合は以下の通りである。

- ・ファシリテーションについての内容が 37 件 (24.7%)
- ・コミュニケーションについての内容は 57 件 (38.0%)
- ・リーダーシップに関する内容のコメントは 12 件 (8.0%)
- ・学びに関する内容は 16 件 (10.7%)

この結果から、学生はボランティア学生の活動を通して、特に、コミュニケーション能力の向上とファシリテーション力の成長を実感していることが分かる。

5. まとめ

今回の調査から、ボランティア学生の活動を通して、学生がファシリテーションのスキルの向上と、人間的成長を実感していることが分かった。グループワークでのファシリテーターとしての経験は、コミュニケーション力にもポジティブな影響を与えており、ボランティア学生として活動することへのやる気に繋がっていることから、「こころ豊かに生きる」科目が、授業に関わるボランティア学生の成長にも影響していることが分かった。

※参考文献

- 1 野間川内一樹、山咲博昭、村西利恵、山口一裕、大山香織、秦敬治、重松利信：岡山理科大学の基盤教育における新しい取り組み－こころ豊かに生きる科目の学生への影響と今後の展望－,岡山理科大学教育実践研究,4,57-71 (2020)